

Asake Junior high school

和学鍛



朝明中学校通信 令和8年9月16日号

全国学力・学習状況調査結果について



4月に実施した全国学力・学習状況調査（全国学調）の結果概要をお知らせします。なお、各教科（国語、数学、英語）の問題は、中学校2年生終了時まで学習した内容から出題されたものです。



学力調査では、国語、英語は全国平均値とほぼ同等でした。数学は全国平均値をやや下回りました。

今回の結果から見える朝明中学校生徒の各教科における強み弱み、生活の実態についての特徴的なものを以下に紹介していきます。

国語 短答式の問題は全国平均を大きく上回っている。一方、選択式の問題は全国平均を下回っている。また、思考力・判断力・表現力としての「書くこと」や「読むこと」に対する正答率が、全国平均値とほぼ同等であるのに対して、知識及び技能としての「情報の扱い方に関する事項」が、全国平均値を下回っている。

設問別では、「文脈に即して正しく漢字を書き、語句を文章の中で使うことができるかどうかをみる」問題の正答率は全国平均と比べたいへん高いが、「助動詞の働きについて理解しているかどうかをみる」といった基礎となる問題の正答率が低かった。



数学 学習指導要領の領域として「関数」や「図形」に対する正答率は全国平均とほぼ同等であるのに対して、「数と式」「データの活用」に対しては、全国平均を下回っている。選択式の問題は全国とほぼ同等であるが、短答式や記述式の問題は全国平均を下回っている。



設問別では、「与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるかどうかをみる」など知識・技能に係る問題の正答率は全国平均と比べ高いが、「統合的・発展的に考え、事柄の特徴を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる」など思考力・判断力・表現力に係る正答率が低かった。

英語 「聞くこと」「読むこと・書くこと」に関して、どの技能も全国平均と比べほぼ同等であった。設問別では、「音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる」問題や「日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる」問題の正答率が全国平均と比べ高い。一方、「社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる」問題の正答率は低かった。



★今後の方針 どの教科においても、「知識・技能」の定着と、それを活用する「思考力・判断力・表現力」を向上させていくために以下の取り組みを進めていきます。

【全教科を通じて】小グループでの話し合いを通じて、自分の考えを深めたり新たな考え方を知ったりしながら、自分の課題に気づき、学習方法を自ら選択できるような力を育成する。

【国語】読解力育成のため、一つ一つの言葉に立ち止まって、じっくり考えるという取り組みを重点的に行うとともに、表現力育成のため「書くこと」「話すこと」など自分の考えを整理し、目的に応じた言語活動を充実させていく。

【数学】自分の言葉で説明する場面設定をしたり、箱ひげ図※1や計算といった基礎・基本の小テストや振り返りを行い、基本的な定着度を高めたりすることで、自信をもって記述問題や応用問題に対応できる力を育成する。 ※1 箱ひげ図：データのばらつきや分布の仕方を一目で把握できるよう視覚的に表現したグラフ

【英語】ルーブリック※2を提示し、書く活動のパフォーマンス課題を多く取り組んでいく。課題に対して、できるようになることを明確にして取り組ませることで、基礎・基本の定着を図る。

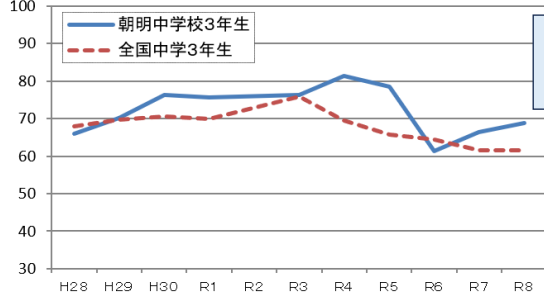
※2 ルーブリック：「何を、どこまで達成できれば良いか」を明確にするため、評価の基準を具体的にまとめた「表」

生徒質問紙から

「自己調整の力」をつけることがとても大切になっています



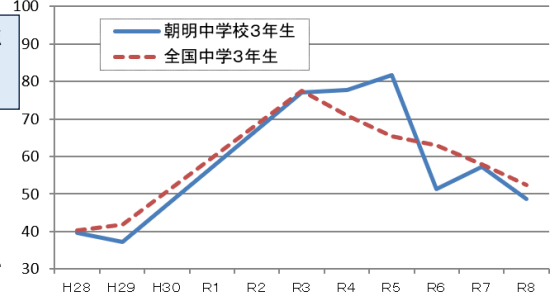
【平日】学校以外で、1時間以上勉強をする（塾も含む）



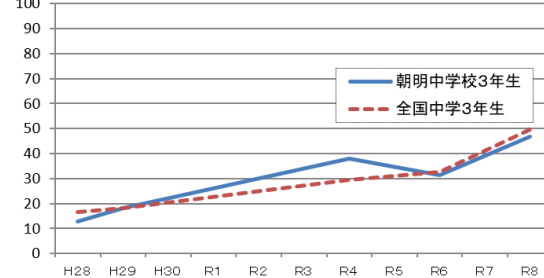
勉強、動画視聴
時間等自分で
コントロールを



【休日】学校以外で、1時間以上勉強をする（塾も含む）



【平日】SNS や動画視聴を3時間以上する



※平成 30 年～令和 3 年、令和 5 年、令和 7 年はアンケート未実施

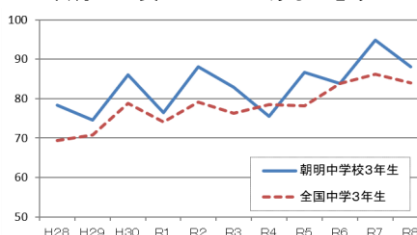
学校以外での勉強を1時間以上すると答える生徒の割合が、平日・休日とも減少する中で、平日の SNS や動画視聴を3時間以上するという生徒の割合は全国・本校ともに年々増加し、50%に迫っています。

「目標を達成するために、自分の感情や思考、行動を自分でコントロールして調整する力」、「自らの学習を主体的にコントロールし、計画・実行・評価する力」が大切になっています。この「自己調整力（能力）」を学校と家庭が協働して育てていくことがとても大切になっています。

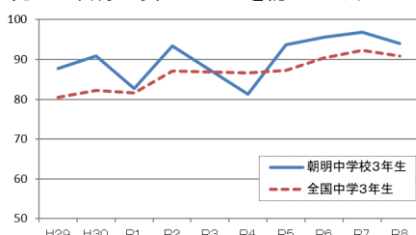
学びの基盤となる「自己肯定感」の向上と、「仲間づくり」を進めています



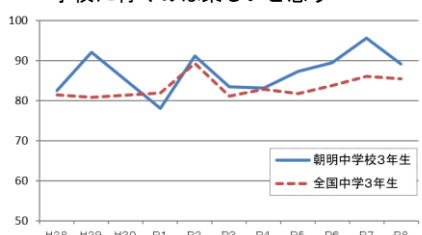
自分には良いところがあると思う



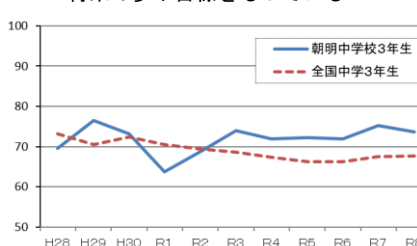
先生は自分の良いところを認めてくれている



学校に行くのは楽しいと思う



将来の夢や目標をもっている



上記グラフのほか、主に肯定的な意見が全国平均より大きく上回った質問項目

	朝明中	全国
学校の勉強のことに、あなたの親や家族は、どれくらいあなたと話しますか（週1回以上）	79	72.1
あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思いますか	76	67.5
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか（肯定的意見）	93.4	91
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	85.6	72.3
学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	92.8	87
先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか	90.4	85.2
あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	91	84.5



上記は学びの基盤となる「自己肯定感」と「仲間づくり」等に係る生徒質問紙の回答状況です。昨年度より少し数値が下がったところもありますが、概ね全国平均値を上回っています。学力などの認知能力向上の支えとなる非認知能力（意欲、粘り強さ、協調性など）や自己肯定感が高いのは、様々な力を向上させていく上で「伸びしろ」があることを示していると思われます。今後も「仲間づくり」等を進めていくとともに、学力などもしっかりと向上させていきたいと思ひます。